

市の構成員として 高校生を巻き込む取り組み事例

浜松聖星高等学校 情報科主任 園川香おり

目次

1. 概要
2. 実施報告(生徒より)
3. 表彰報告
4. 教育現場からデジスマ構想を促進するには

<1.概要(1/2)>

背景:若者が「市民」であることの意識が足りない

目的:若者自身が市の構成員であることを自覚する

方法:高校生がより良いまちづくりに貢献する

浜松市の担い手となる人材づくりとして

- ・自らが地域の構成員であることを意識し、社会問題に対し主体的に貢献しようとする意欲を育てる。
- ・生徒自身がデジタルを活用した問題解決を体験し、デジタル技術の活用がこれからの社会発展の手法の一つであることを学ぶ。
- ・集めたデータが可視化表現された結果を確認することによって、データサイエンスの活用方法を学び、理数への興味を育てる。

<1.概要(2/2)>

実施体制：浜松聖星高等学校(以下、「聖星高校」という)

浜松市(デジタル・スマートシティ推進課、道路保全課)

実施スケジュール：R6年度 10月～12月、R7年度 6月～9月

(内容の詳細は生徒発表より)

取り組み内容：

実施者：聖星高校 全生徒 約600名

取り組み方法：生徒自ら発見した道路損傷等(※)について、浜松市公式LINE「しゃんべえ情報局」の「通報サービス いっちょお！」より通報する。

<2.実施報告(生徒より)> Tableauダッシュボードのご案内



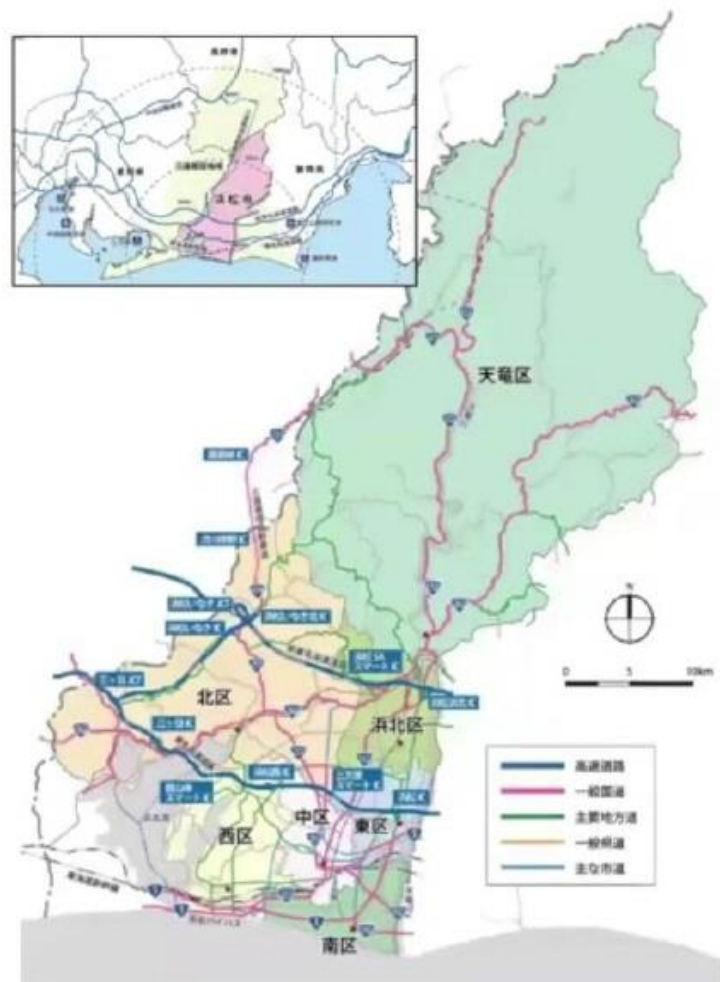
画面のQRコードから
本校の通報を集計した
ダッシュボードをご覧ください

通報しに行っちゃお！言っちゃお！
～若者の社会参画の促進～

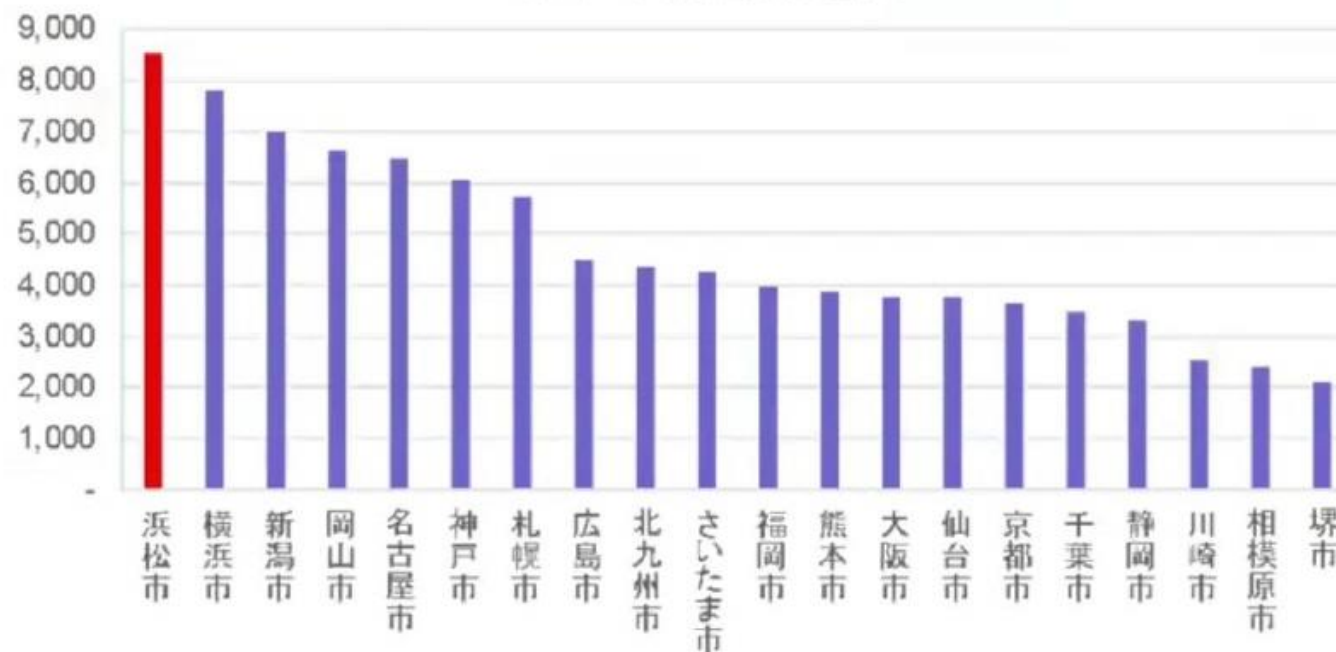
浜松聖星高等学校 2 学年 情報Ⅱ選択 1 1 名
(チーム 浜松の星々)

1-1.背景 浜松市の道路事情(1/3)

政令市最長の道路延長



政令市別道路延長



1-2.背景 浜松市の道路事情(2/3)

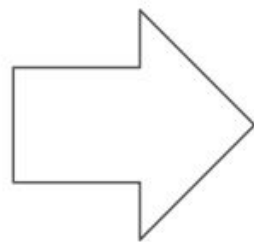
道路パトロールを実施

- **道路管理者は道路を維持・修繕する義務(法§42)**
- **「浜松市道路パトロール実施要領」を定めている**
(目的) 道路管理上必要な情報を収集し、適切な処置を講ずるため

1-3.背景 浜松市の道路事情(3/3)

道路情報の収集ができず、適切な処置が行えなかった場合...

道路で事故が発生



1-4.背景 デジタル・スマートシティ構想(1/2)

市民QOL¹の向上

市民の生活品質向上・デジタル活用の推進

¹：個人が主観的に感じる生活の質や満足度を図る指標

1-5.背景 デジタル・スマートシティ構想(1/2)

都市の最適化

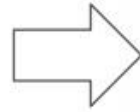
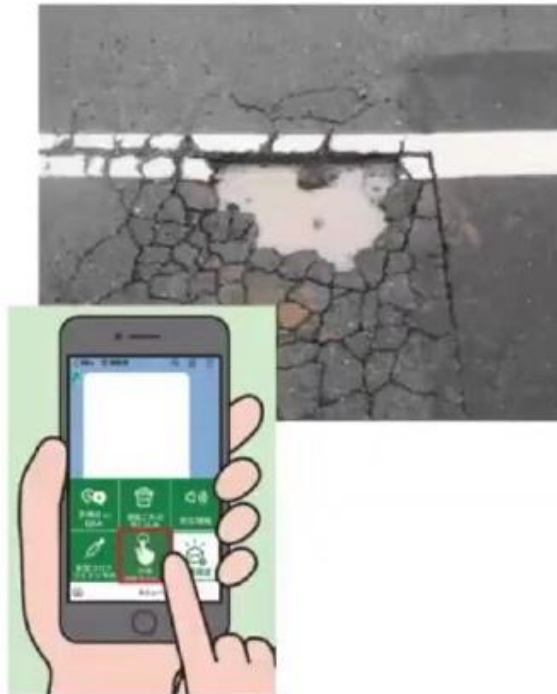
都市運営とインフラ管理の効率化

1-6.背景 デジタル・スマートシティ構想(1/2)

浜松市公式LINE「しゃんべえ情報局」

「通報サービス いっちょお！」

市民からの通報



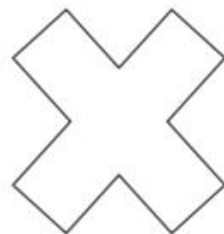
道路管理者による修繕



2-1.浜松市が直面していた課題(1/2)

シビックテック²には「市民」と「技術」の両方が必要

市民(Civic)
参加意識



技術(Tech)
いっちょお!

**システムはあるが、
若者が「担い手」として使う事例は少ない**

²：市民が身近なテクノロジーで街を良くすること

2-2.浜松市が直面していた課題(2/2)

約8,500kmの道路を管理し、
事故が起きないように日夜点検し続ける

=とてても大変

3.動機の整理

若者の参画意識を育てるには？

道路点検が大変な

浜松市の手助けをするには？

4.目的

道路改善を通じて 高校生のシビックテックを向上させる

若い世代が地域課題に主体的に関わり、
テクノロジーを活用して社会貢献する力を育成

5. 高校生という主体

高校生は道路の異変を見抜く「鍵」



毎日歩く

通学路のヘビーユーザー



広域を移動

自転車での長距離移動



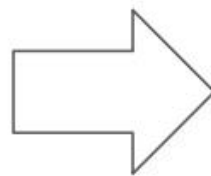
デジタルネイティブ

テクノロジーを使いこなす

6. 使い方の再設計

仕組みは変えない (LINE)
「使い方」を変える

× 壊れたら通報
(受動的)



○ 課題を探して共有
(能動的)

7.運用フロー



高校生
街を歩いて
損傷を発見



いっちゃんお！
識別タグ「SK」
を入力して通報



浜松市土木部
データを集約
補修対応

8-1.本校の取り組み(2024年)

説明会の実施

10月18日(金)

全校一斉

いっちょお！の説明



通報と集計

10月21日~11月20日

取り組み期間

(道路損傷等の通報)

S.Kタグ付けでの集計



事後アンケート調査

12月

全校対象

312人が回答

8-2.2024年の通報結果概要

浜松聖星高生による「いっちゃんお」通報ダッシュボード

①地図で全体を見る

2カ年比較を見る

▼通報年で絞る

- (すべて)
- 2024
- 2025



通報種別

- ガードレール
- カーブミラー
- その他
- 街路樹等
- 側溝
- 道路照明
- 舗装・白線

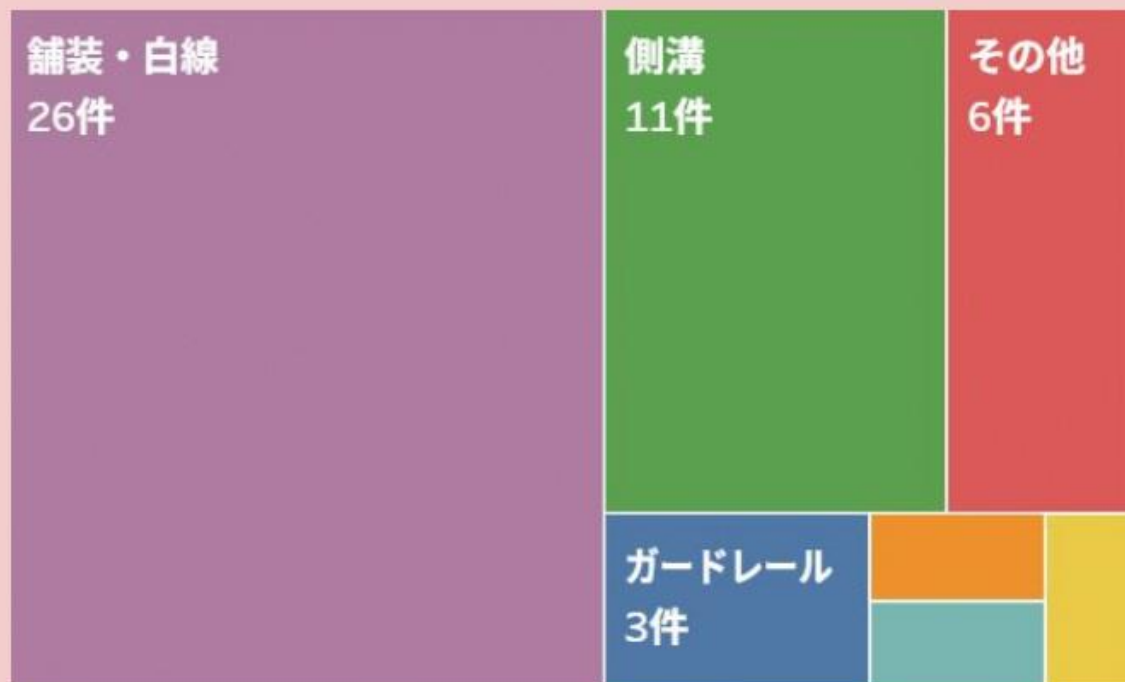
※重複通報を除く

<通報件数>

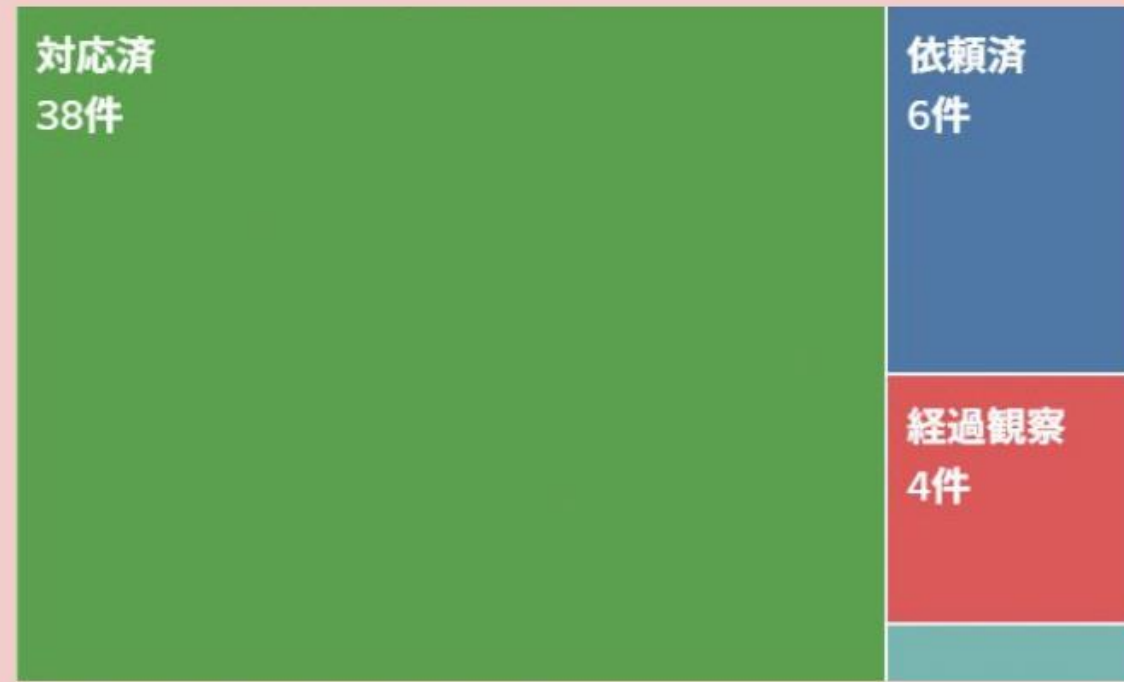
49件

8-3.通報種別の内訳

通報種別の内訳



対応状況別の内訳

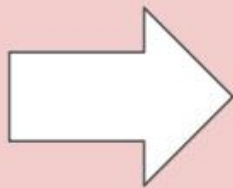


8-4. 通報地域の可視化



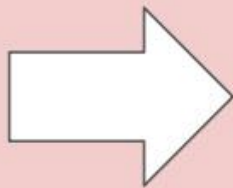
8-5. 実際の通報写真(1/2)

歩道を修復



8-6. 実際の通報写真(2/2)

側溝を修復



8-7.2024年の事後アンケート結果で わかったこと

- 道路の安全性を市民が確認することで、住民意識が高まると感じた。
- 道路などの工事が必要だなと思ってもどこに要望を言えばよいのかわからなかったなので、システムを知ることができて良かった。



「下校時間が日没後になり損傷箇所が視認できない」
という意見が出た。
→2025は改善しよう！

9-1.本校の取り組み(2025年)

説明会の 実施

6月16日(月)

全校一斉

いっちゃんお！
の説明



通報と集計

10月21日
~11月20日

取り組み期間

(道路損傷等の
通報)

S.Kタグ付けでの
集計



事後

アンケート
調査

12月

全校対象

225人 回答



他校への拡大

他校の友人たちへ
取り組みを声掛け



一般市民として

投稿参加

9-2.通報種別の内訳

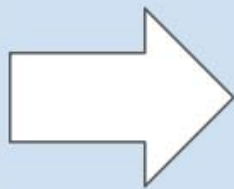
通報種別の内訳



対応状況別の内訳

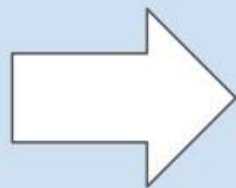


9-4. 実際の投稿から改善された例(1/2)



横断歩道が
きれいに

9-5. 実際の投稿から改善された例(2/2)



舗装を修復

9-6.2025年の事後アンケート結果で わかったこと

- 自分の報告によって普段利用する道を直すことで浜松市に貢献できているととても実感がもてた。
- よりよい浜松になる未来が見えてきたので、未来が楽しみ。
- 地域の問題を行政だけでなく住民も考えるのは良いと思う。

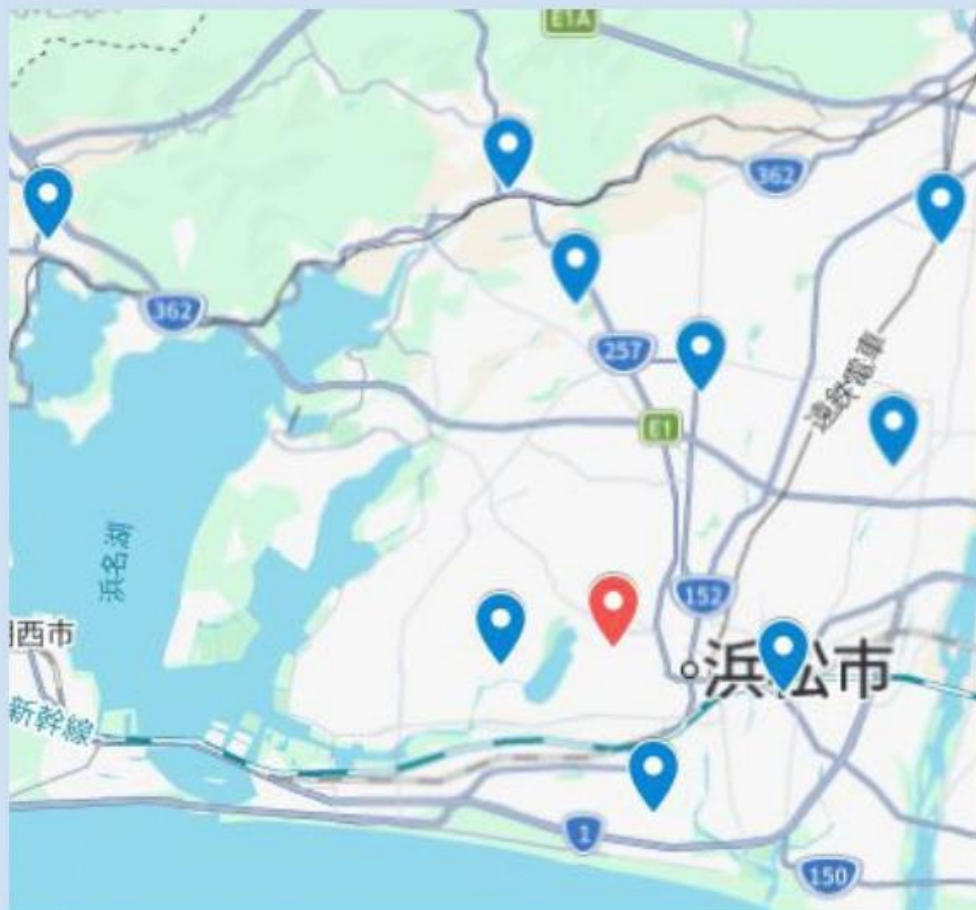


**「この取り組みがもっと広がれば浜松市の道路をより
通りやすく安全なものにできるのではないか」**

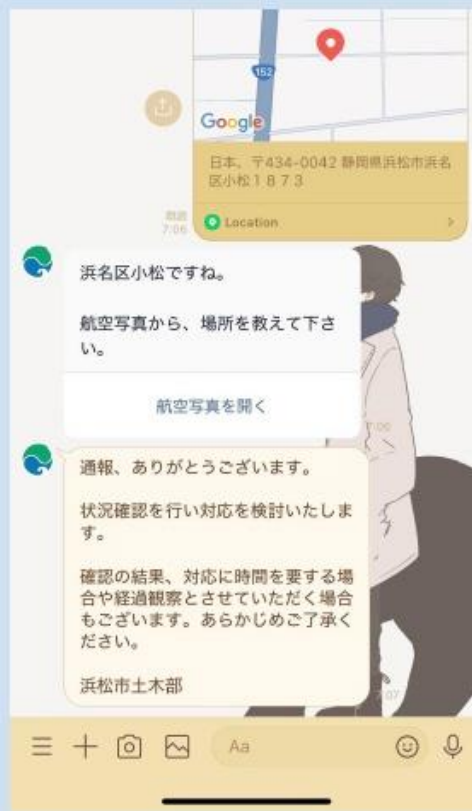
という意見が出た。

→さっそくやってみよう！

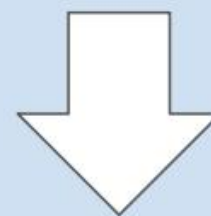
9-7.他校への実践検証



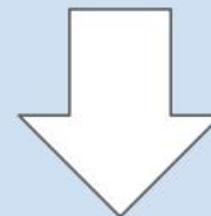
他校の生徒の通報場所マップ



合計 8 校 22 人に
声掛け、実施



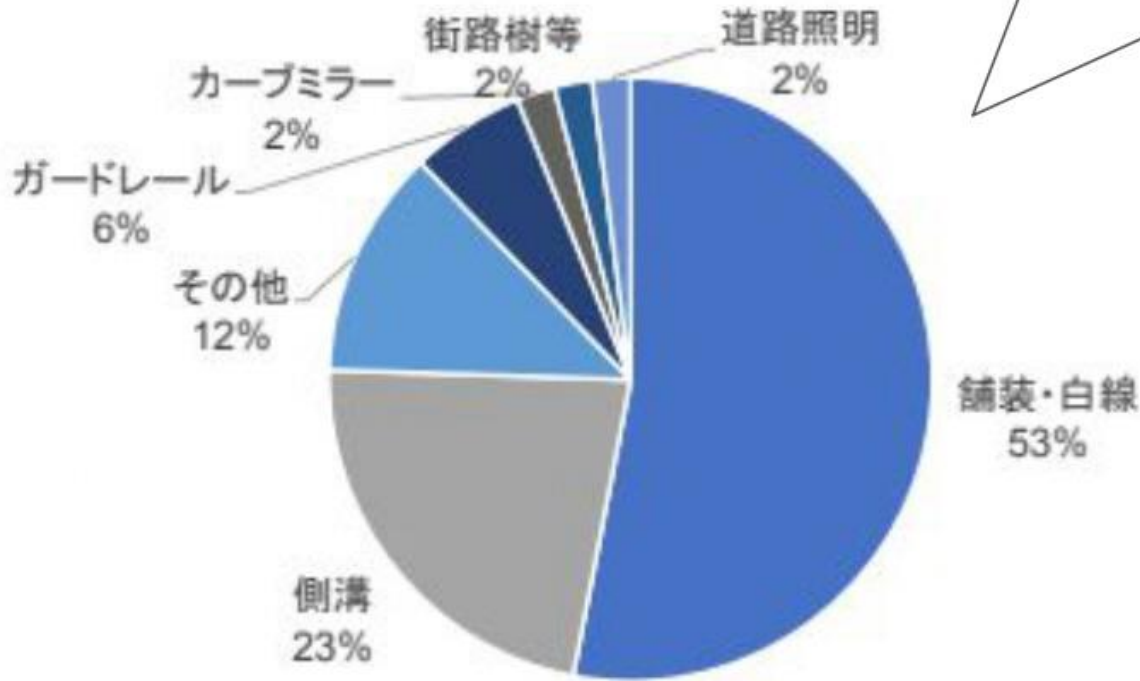
学校に関係なく
展開ができた



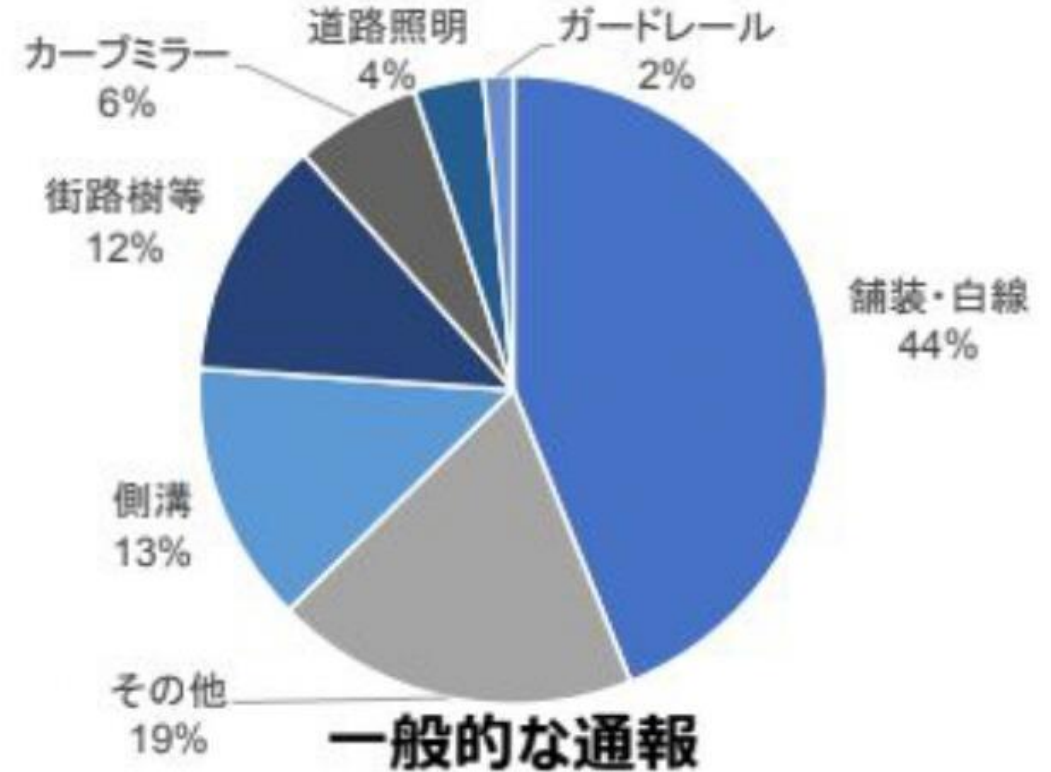
他地域への拡大
が可能なモデル

10-1.2年間の結果：歩行者視点

舗装・白線が20%多い

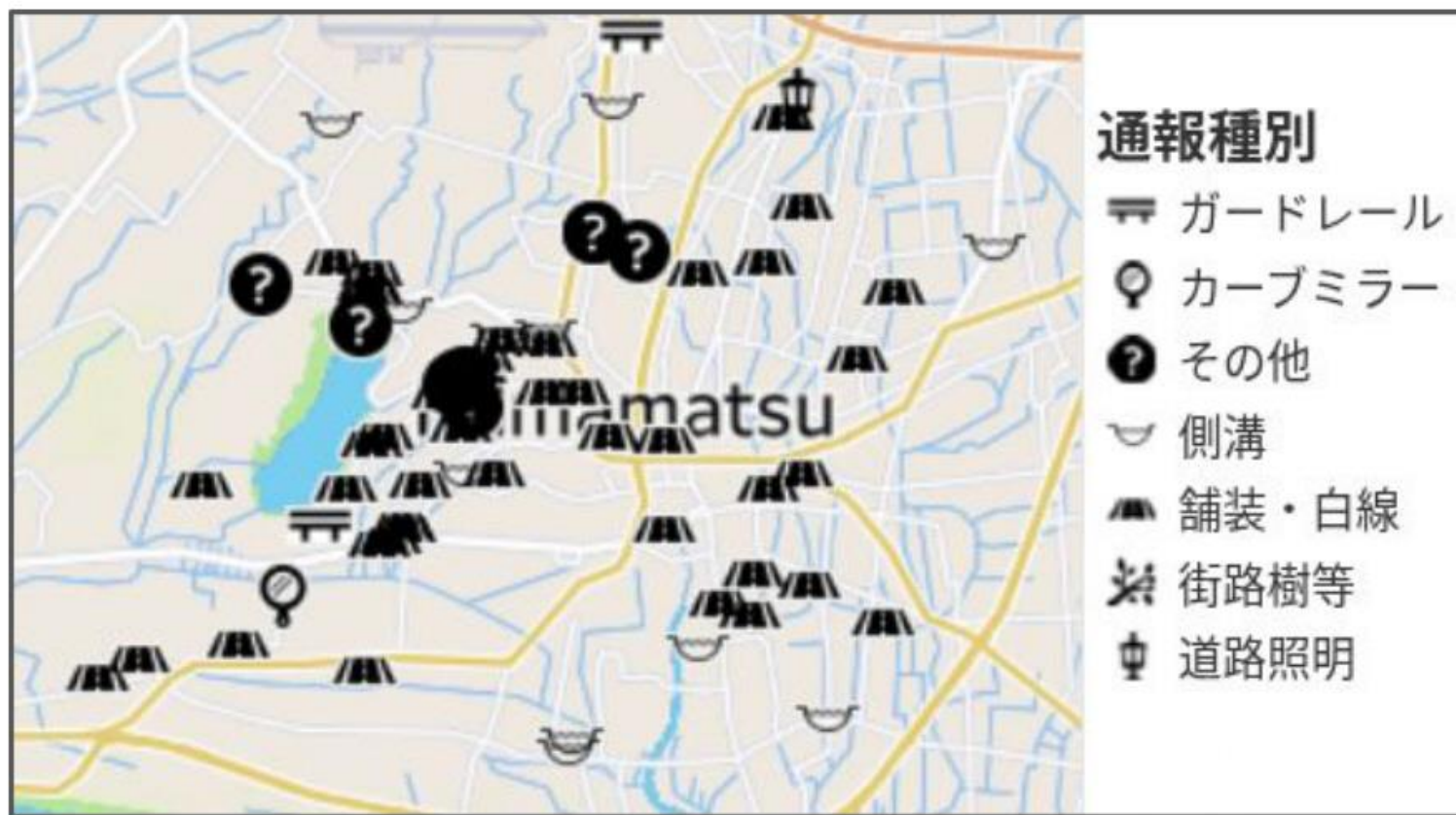


本校の通報



一般的な通報

10-2. 2年間の結果：投稿の分布



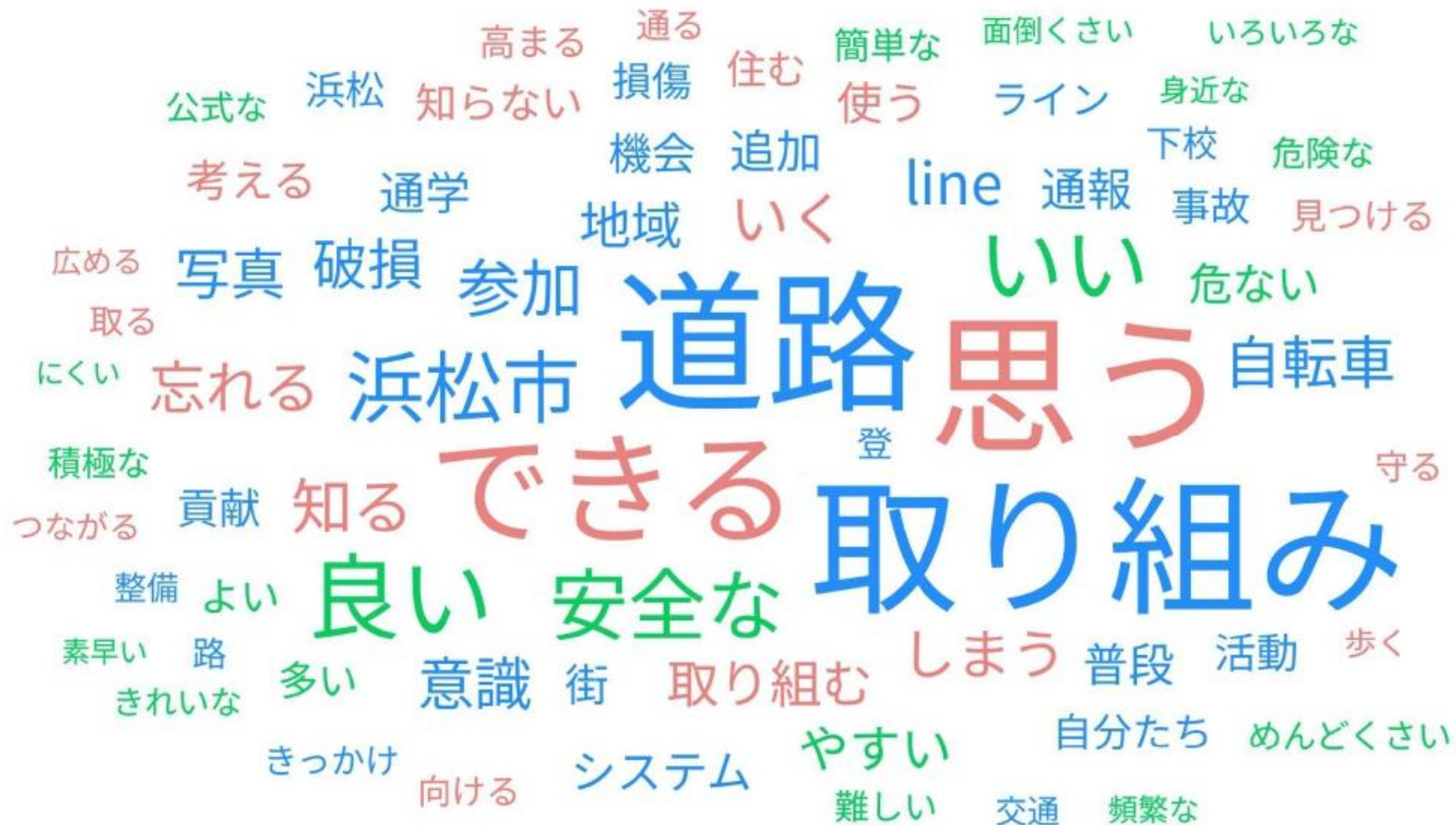
主要道路周辺が多い

舗装・白線が多い

次いで側溝が多い

10-3. 2年間の結果

事後アンケート(417件)の結果



(R6,R7の生徒感想をテキストマイニング)

10-4.生徒の気づき

- 損傷箇所を探しても見つかりにくく投稿ができなかった。そして、市が常に保全してくれているのだと気がついた。
- 破損箇所を見つけても、ささいなものだが送っていいのかと不安になったがLINE通知がくるので安心できた。
- 通報した2,3日後に修復されており、市が早く仕事をしてくれることに感動した。自分が浜松に貢献できたと思うとうれしい。
- 私達が積極的に動くことで、安心安全な暮らしに近づけたいと思った。

10-5.見つかった課題

- 通報の継続率が低い
- システム知名度が低い



- 継続的な利用支援と多様な広報が必要

11.成果

- ・道路点検にお役に立てた
- ・若者の参画意識が育った

13. 今後の展開

活動の継続

次年度以降も本校継続
実施

持続可能な地域貢献
活動を目指す

連携強化

近隣の学校や家族と
の協力体制の構築

本活動を広域で展開

成果の共有

教育委員会や地域コ
ミュニティと連携

本取り組みのモデル
ケースとして他地域へ
の展開を図る

14.出典

- 浜松聖星高生による「いっちょお」通報ダッシュボード by 浜松市
- 第2回浜松聖星高校と浜松市の連携プロジェクト説明動画
- 令和6年度 浜松聖星高校との連携結果報告書

<3.表彰報告>

アーバンデータチャレンジ2025

一般の部 銀賞＋実行委員会特別賞

(主催:一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会)

第3回 全国情報教育コンテスト

東海・中部ブロック 入賞

(主催:全国情報教育コンテスト」運営事務局 (デジ連))

ご協力ありがとうございました。

<4.教育現場からデジスマ構想を促進するには>

高校生がより良いまちづくりに貢献すること

→若者自身が市の構成員であることを自覚すること

→地域に希望を持つことで、未来の担い手となる



教育現場をもっと効果的に活用する

・産官の高度な取り組み(技術+心の寄り添い構想)

→市民を巻き込む → Well-being向上

⇒多様なメディア活用、やりたくなる仕掛けづくり

・若年層流出ワースト1県の担い手対策(国土の縮図都市)

⇒高校を巻き込むデジスマ構想だからこそその協働

以上

浜松聖星高等学校 情報科 園川香おり

官民連携プラットフォーム会員が講師となり、市内学校の授業等で講座を開催

開催実績

7回開催（小学校5回、高等学校2回） ※R6年度実績5回（小学校2回、中学校1回、高等学校2回）

講座の満足度 （5段階評価）

平均4.86（評価5：6回、評価4：1回）

- 子供達の未来へと繋がる内容だった
- 丁寧に子供たちに教えてくれたり、接してくれたりした
- 適切なテーマで生徒たちへの教育効果が大いに期待できる内容であった
- 本校の授業内容に沿った講座の展開をしてくださることになり、とてもありがたかった
- 説明が少し長く、理解が難しい児童もいた

児童・生徒の満足度 （5段階評価）

全ての回において、**最高評価 5** を獲得

- 子供たちの積極性と自然な笑顔が見られた
- 子供たちが食い入るように見ている姿が印象的であった。実際に体験できたことが興味・関心を引くものとなった。
- 全体的に、生徒の反応は非常に良く、興味を持って受講していた。「ここで働きたいな」など、自身の進路に関連付けて考えている生徒も数名見受けられた

講座開催状況 (令和8年1月末時点)

No	開催日	講座名	講師団体	学校名	学年・人数
1	6月16日	デジタル技術の変革による生活の変化を知ろう (Society4.0から5.0へ)	遠鉄システムサービス株式会社	浜松市立赤佐小学校	小学4～6年生20人
2	6月26日	ミライの社会を覗いてみよう!	ソフトバンク株式会社	浜松市立瑞穂小学校	小学6年生146人
3	9月30日	子育ての課題をデジタルで解決する	はままつ子育てネットワークぴっぴ	静岡県立天竜高等学校 [総合学科]	高校1年生80人
4	10月16日	ミライの社会を覗いてみよう!	ソフトバンク株式会社	浜松市立三ヶ日西小学校	小学6年生60人
5	10月30日	ドローンと私たちの社会生活について	株式会社トラジェクトリー	浜松市立三ヶ日西小学校	小学6年生60人
6	11月17日	デジタル技術の変革による生活の変化を知ろう (Society4.0から5.0へ)	遠鉄システムサービス株式会社	浜松市立尾奈小学校	小学4～6年生15人
7	1月14日	地理情報 (GIS)	株式会社フジヤマ	静岡県立天竜高等学校 [森林・環境科]	高校2年生24人



9/30 天竜高での講師派遣の様子
(グループワーク「母子手帳をつくるなら紙?電子?」)



10/30 三ヶ日西小での講師派遣の様子
(ドローンの見学)



11/17 尾奈小での講師派遣の様子
(生成AIを使ったイラスト作成体験)



1/14 天竜高での講師派遣の様子
(3次元レーザースキャナLiDARによる計測体験)

デジタル・スマートシティに関する取組報告（実績報告）

課題解決に向けたアイデアとソリューションの充実
若者の巻き込み
交流の場の充実

「官民連携で実現するデジタル・スマートシティ浜松」をテーマにフォーラムを実施

■ 開催日

令和8年2月13日(金) 14時00分～16時30分

■ 参加申込数

182名 (会場参加：46名 / オンライン参加：136名)

《プログラム》

■ 基調講演

テーマ：スマートシティのこれから

講演者：東京大学 教授 越塚 登 氏

■ 浜松市フェロー講演

テーマ：アーキテクチャの観点から考えるデジタル・スマートシティの実現

講演者：浜松市フェロー 白坂 成功 氏

■ パネルディスカッション

テーマ：データが導く未来 -官民連携による課題解決-

インプットトーク①：斜面変異の観測サービスによる防災支援

インプットトーク②：笑顔が寄付に変わる！スマイラル！

モデレーター：白坂 成功 氏

パネリスト：越塚 登 氏、浜松市フェロー 東 博暢 氏

：株式会社フジヤマ DX推進部 部長 山浦 篤 氏

：一般社団法人One Smile Foundation 代表理事 辻 早紀 氏



令和7年度デジタル・スマートシティ浜松フォーラムの様子

浜松市デジタル・スマートシティ推進課

YouTubeチャンネルでアーカイブ公開中

<https://youtu.be/c6Sc0yftJmY?si=HUDDeBQOtHmLu7bc>



デジタル・スマートシティに関する来年度の取組予定



来年度のHamamatsu ORI-Projectでは、次の3つの取組を並行して実施

1 地域課題解決型

市内の各部門から提示された課題テーマについて、データを活用して解決を図るプロジェクトを公募し、有望案件について浜松市内における実証実験を支援。

2 PF会員提案型＜新規＞

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォームの会員企業・団体からデータを活用した課題解決プロジェクトを募集し、有望案件について浜松市内における実証実験を支援。

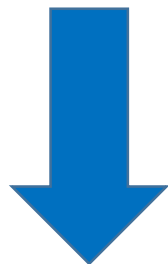
3 浜松市データ連携基盤利活用セミナー（仮称）の開催＜新規＞

浜松市データ連携基盤の活用の裾野の拡大に向け、エンジニア以外の専門知識のない人でもデータ連携基盤に接続されたデータに触れ、その利活用を考えることができるセミナーを開催。

講師派遣において、これまで原則としていた「1校1回1講座」を撤廃します。

これまでの体制

- なるべく多くの学校で開催できるように、原則として「**1校1回1講座**」にご協力いただいていた
- 当該年度の申込受付数・開催数に余裕がある場合に、1校複数回の開催申込を受け付け



開催校から「同一年度で複数回の開催ができればありがたい」という要望の声
各校で複数回開催に踏み切れず、これまでの要望を満たせていなかった可能性

「1校1回1講座」を撤廃することで...

- **異なる分野の講座**が受けられ、**多角的な視点**でデジタル・スマートシティに触れることが可能になります。
- 1回目で概要を掴み、2回目で個別具体的な事例を知るといった**理解をより深化させる講師派遣**が可能になります。

※講座の充実を図るため、講師になっていただける会員（企業、団体）を継続して募集します。